

nikko am

Nikko Asset Management

販売用資料

2023年12月

(2023年12月14日使用開始)

CHINA ENERGY INNOVATION

チャイナ・エネルギー・ イノベーション株式ファンド

追加型投信／海外／株式

※当ファンドは「ESG投信」ではありません。

設定・運用は

日興アセットマネジメント

日興アセットマネジメント株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第368号
加入協会:一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会

※ 2023年12月14日付でファンドの名称を「チャイナ脱炭素イノベーション株式ファンド」から「チャイナ・エネルギー・イノベーション株式ファンド」に変更いたしました。

世界的に進む“脱炭素”

中国もまた、
2030年までの**カーボンピークアウト**と、
2060年までの**カーボンニュートラル**の達成を
目標に掲げる。

(2020年9月の国連総会で習近平国家主席が表明)

しかし、その意味するところは他国と異なる。
経済規模で世界第2位、CO₂排出量最多の**中国**にとって、
脱炭素の取り組みは、重要な**国策**。

地球温暖化の原因となるCO₂(二酸化炭素)濃度の上昇を抑制すべく、CO₂の排出量を減少に転じさせることを「カーボンピークアウト」、CO₂排出量から吸収・除去量を差し引いた合計をゼロにすることを「カーボンニュートラル(炭素中立、脱炭素)」といいます。

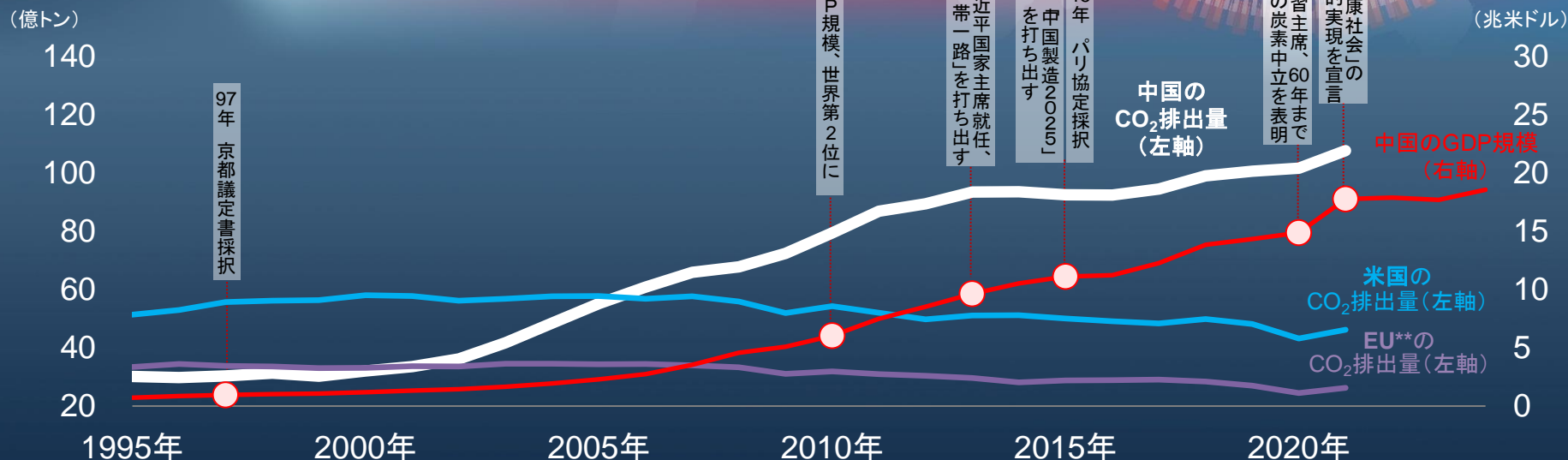
経済成長の重点が「量から質へ」移行する中、 成長と脱炭素の両立は必須。

加えて、脱炭素分野では

世界的な主導権の獲得をめざし、 国を挙げた取り組みが期待される。

<米・中・欧のCO₂排出量と中国のGDP規模の推移>
(1995年～2024年予想*)

* 米・中・欧のCO₂排出量は2021年実績まで
中国のGDP規模の2023年以降はIMFの予想値



(出所)IEA(国際エネルギー機関)「Greenhouse Gas Emissions from Energy, 2023 Highlights」、IMF「World Economic Outlook, October 2023」

**欧州連合(英国を除く)

中国の「脱炭素」に注目する3つの理由

1 政府のコミットメント

「3060目標*」が国策として進行中。
また、大気汚染対策やエネルギー
安全保障面からも、政府による
脱炭素の取り組みは不可逆的。



* 2030年までのカーボンピークアウト、
2060年までのカーボンニュートラル

2 巨大なホームマーケット

経済成長と脱炭素を両立させる
取り組みが加速する見込み。
加えて、「一帯一路」構想を通じた
新興国需要の取り込みにも期待。



3 国際的な競争力

中国企業は太陽光発電、風力発電、
バッテリー、EV(電気自動車)などの
分野で世界的な優位性を持つ。



脱炭素社会を実現するためのインフラやハードウェアにおいて、
中国企業が世界的な主導権を握る可能性大。

脱炭素社会において進化するビジネスにも大きな期待。

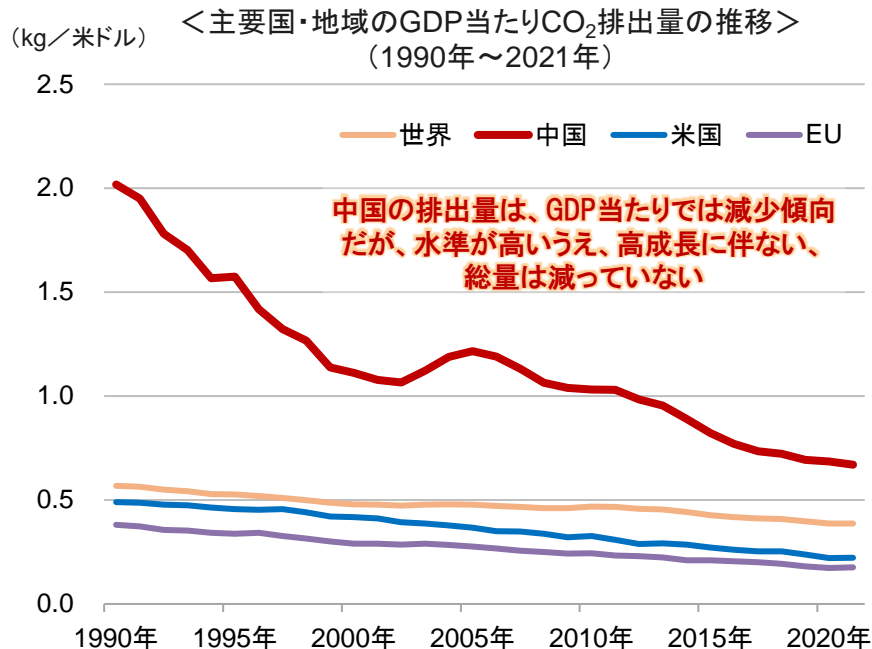
※写真はイメージです。

1. 政府のコミットメント

威信のかかった脱炭素の取り組みは不可逆的

- 世界第2位の経済規模を誇り、ややゆとりある社会(小康社会)を実現した中国は、環境などにも配慮しつつ、質の高い発展を目指す新たな時代を迎えています。また、2015年に採択された「パリ協定」では、新興国も含めた全ての国が温室効果ガスの削減に取り組むこととなりました。
- こうした中、習国家主席が「2030年までにCO₂排出量を減少に転じさせ、2060年までに炭素中立を目指す」と、2020年9月の国連総会で宣言するに至りました。つまり、脱炭素の取り組みには中国共産党の威信がかかっており、世界での主導権獲得をも狙う、継続的な取り組みが期待されます。

環境対策は中国国内でも支持を得やすい



(出所) IEA「Greenhouse Gas Emissions from Energy, 2023 Highlights」

国際社会との協調とその一方での覇権争い

〈主要国・地域の環境目標〉

| 国・地域 | 目標 (CO ₂ 削減量、カーボンニュートラル達成時期) |
|------|---|
| 中国 | 2030年までにピークアウトさせる 2030年までにGDP当たり65%以上削減 (2005年比) 2060年 |
| 米国 | 2030年までに50～52%削減 (2005年比) 2050年 |
| EU | 2030年までに55%削減 (1990年比) 2050年 |
| 日本 | 2030年度までに46%削減 (2013年度比) 2050年 |

〈米中の覇権争い〉

| 中国 | 米国 (バイデン政権) |
|---|---|
| 巨大経済圏構想「一帯一路」などを通じ、デジタルインフラにとどまらず、 脱炭素に不可欠なクリーンエネルギーなどへの投資推進を狙う。 | 半導体や脱炭素に不可欠な クリーンエネルギーなどの先端技術競争が今後10年間で激化 すると予想(就任時)。習氏との電話会談で「競争を歓迎する」と述べた。 |

各国の発表や報道などをもとに日興アセットマネジメントが作成

※上記は過去のものおよび目標であり、将来の運用成果などを約束するものではありません。

1. 政府のコミットメント

実益を睨んだ、真剣で着実な政策遂行が期待される

- 中国の大気汚染はいまだ深刻な状況にあり、国民の不満・不安の解消に向け、政府は更なる対応強化に迫られています。
- 中国のエネルギー自給率は8割を超えるものの(2022年10月時点)、環境負荷が大きい国内炭への依存度が高いという問題があります。また、中国は原油の大半を中東などからの輸入で賄っているほか、天然ガスは米国から、良質な石炭はオーストラリアからの輸入に頼っており、エネルギー安全保障の面からも、再生可能エネルギーへの注力などが急務と考えられます。

中国の大気汚染濃度は国際指針の3倍以上

<PM2.5*1の大気濃度ランキング(抜粋)>
(2022年、年平均、人口加重平均)

| 順位 | 国・地域名 | μg/m ³ |
|----|--------|-------------------|
| 1 | チャド | 89.7 |
| 3 | パキスタン | 70.9 |
| 8 | インド | 53.3 |
| 25 | 中国 | 30.6 |
| 72 | 香港 | 14.5 |
| 77 | シンガポール | 13.3 |
| 88 | ドイツ | 11.0 |
| 97 | 日本 | 9.1 |
| 99 | 米国 | 8.9 |



WHO
(世界保健機関)
の指針

10μg/m³

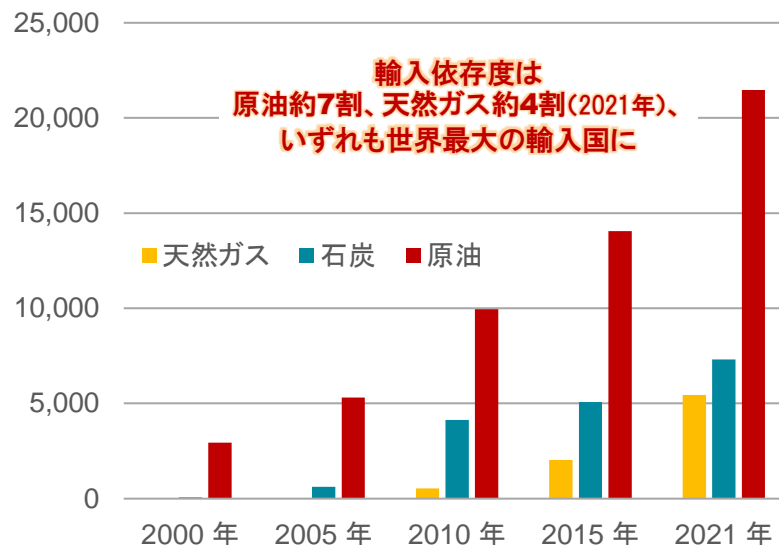
※ WHOが定める、
健康リスクを
最小限に抑制
できる水準

*1 微小粒子状物質
(出所)IQ Air「2022 World Air Quality Report」

エネルギー安全保障面からも早急な対応が必要

<中国のエネルギー輸入量推移>
(2000年~2021年)

(ペタジュール*2)



*2 「ジュール」は国際単位系におけるエネルギーの単位。「ペタ」は10の15乗(千兆倍)。
(出所)IEA「World Energy Balances Highlights(2023 edition)」

※上記は過去のものおよび予想であり、将来の運用成果などを約束するものではありません。

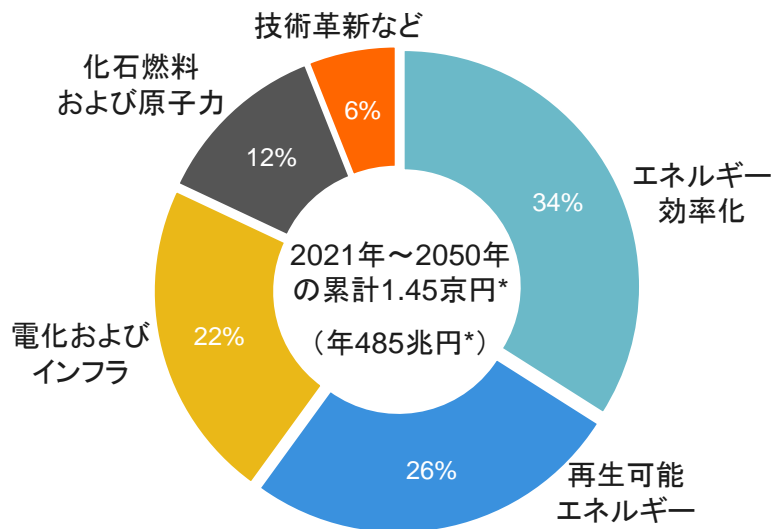
2. 巨大なホームマーケット

道は険しいが、急がねばならない脱炭素

- 再生可能エネルギーの普及・促進を目的とする国際機関IRENA(国際再生可能エネルギー機関)によると、世界が2050年に脱炭素を達成するには、累計131兆米ドル(1.45京円*)にも及ぶ莫大な投資が必要とされており、達成は容易ではありません。
- 特に、CO₂排出量が既に抑えられている先進国の場合、道のりは険しいと考えられます。一方、中国をはじめとする新興国については、脱炭素化が始動・本格化するのはいずれからであり、「一帯一路」などを通じて多くの新興国との連携を強化してきた中国が、主導権を握ると期待されます。

2050年の脱炭素実現に必要な世界の投資額

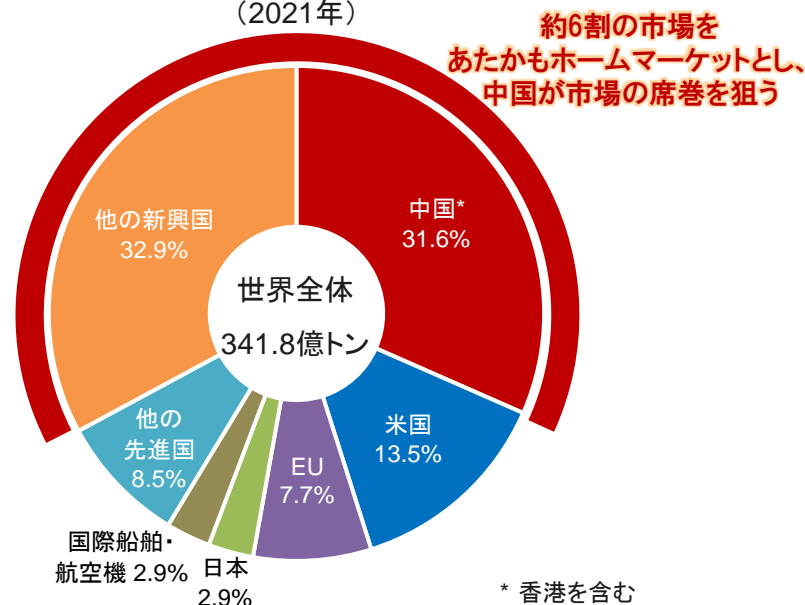
＜世界の必要投資額と主要投資分野の内訳＞



*2021年6月末の1米ドル=111.11円で換算
(出所)IRENA「World Energy Transitions Outlook」

世界のCO₂排出量の約6割を占める新興国

＜世界のCO₂排出量に占める各国・地域のシェア＞
(2021年)



注: OECD加盟国を先進国、非加盟国を新興国としています。
(出所)IEA「Greenhouse Gas Emissions from Energy, 2023 Highlights」

※上記は過去のものおよび予想であり、将来の運用成果などを約束するものではありません。

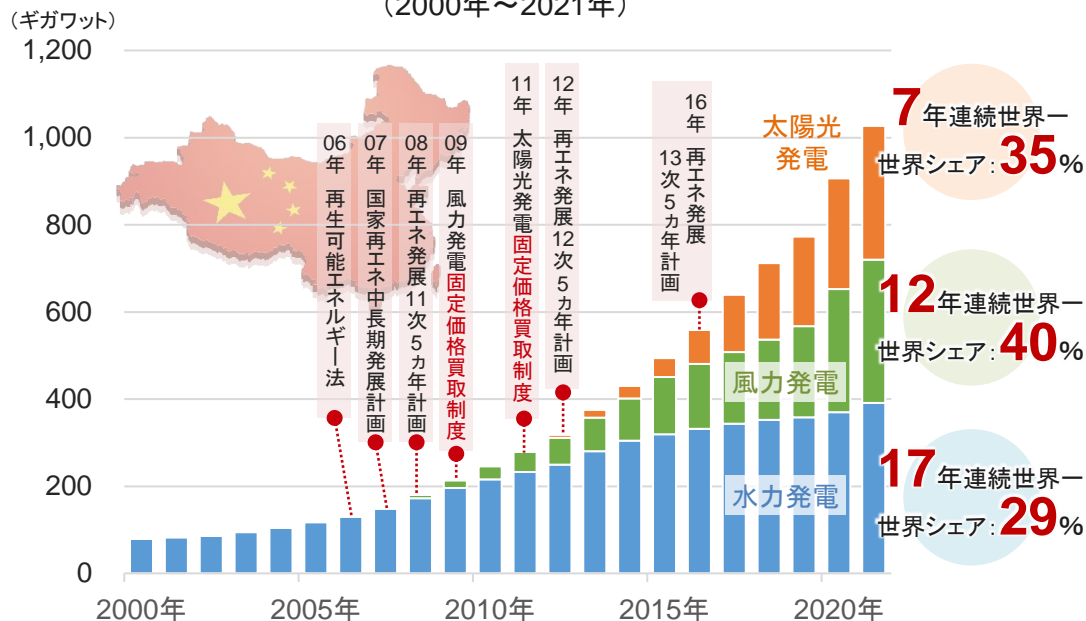
2. 巨大なホームマーケット

世界最大規模を誇る中国のクリーンエネルギー市場

- 近年、中国政府は、深刻化する環境汚染への対応や戦略的新興産業の育成などを目的として、関連分野への政策支援を積極的に展開してきました。再生可能エネルギー（再エネ）の固定価格買取制度や、新エネルギー車販売への補助金政策といった手厚い支援を背景に、中国のクリーンエネルギー産業は急速な発展を遂げており、現在ではさまざまな分野で圧倒的な存在感を示しています。

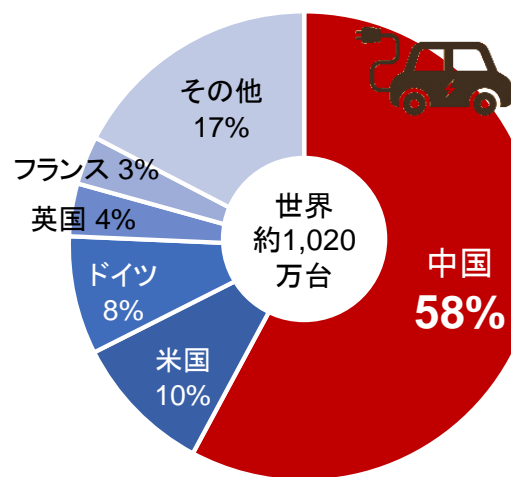
政府の後押しを背景に、中国のクリーンエネルギー市場は世界最大規模に成長

＜中国の再生可能エネルギー発電設備容量*の推移と主な関連政策＞
(2000年～2021年)



*発電設備の最大出力容量
(出所)IRENA「Renewable Electricity Capacity and Generation Statistics, August 2023」、中国国家能源局

＜新エネルギー車**販売台数の国別比率と中国の主な関連政策＞
(2022年)



- 09年: 関連技術に対する研究開発支援
- 09年: 公共分野の新エネ車購入補助
- 10年: 消費者向け補助金支給開始(13年より本格化)
- 12年: 省エネ・新エネ自動車産業発展計画
- 16年: 新エネ車専用ナンバープレートの全国導入
- 20年: 省エネ・新エネ自動車技術ロードマップ2.0 新エネ車産業発展計画

**EV(電気自動車)およびPHEV(プラグインハイブリッド車)
(出所)IEA「Global EV Data Explorer」

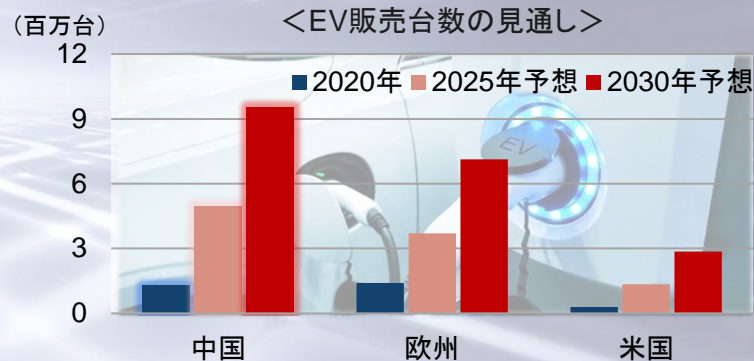
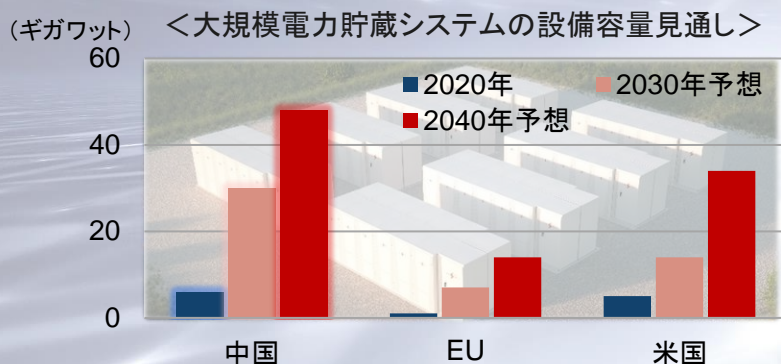
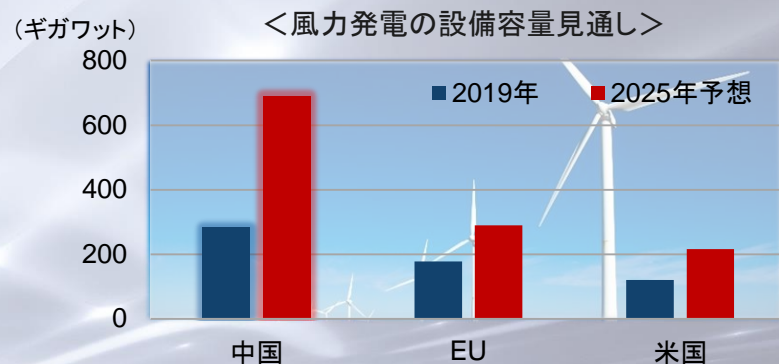
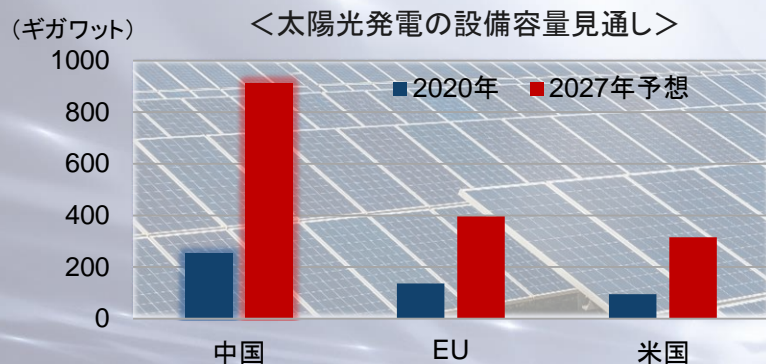
※上記は過去のものであり、将来の運用成果などを約束するものではありません。

2. 巨大なホームマーケット

脱炭素分野における中国市場の拡大余地

- 世界最大のCO₂排出国である中国では、今後も経済規模の拡大に伴うエネルギー需要の増加が見込まれます。そうした状況のもと、2030年のカーボンピークアウトに向けた様々な取り組みが予想されることから、今後の市場拡大余地は大きいと考えられます。

今後も中国では、圧倒的な規模の市場拡大が予想される



(出所) IEA「Renewables 2022 Data Explorer」、「Data and statistics」

※写真はイメージです。

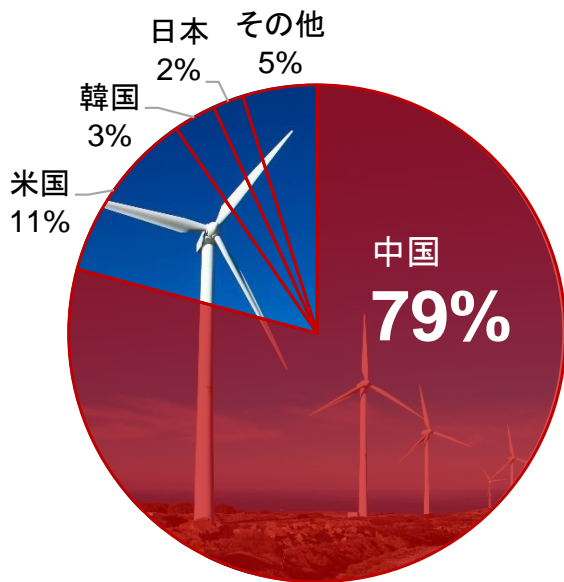
※上記は過去のものおよび予想であり、将来の運用成果などを約束するものではありません。

脱炭素分野における中国企業の優位性(再生可能エネルギー)

- 再生可能エネルギー市場において、中国企業はコスト面の優位性に加え、技術面でも高い競争力を有しています。また、サプライチェーンや設備製造といった関連産業でも世界で随一の存在感を示しており、市場におけるプレゼンスは年々向上しています。
- 近年は新興国を中心に海外市場の開拓にも注力しており、関連設備やサービスを積極的に輸出しているほか、「一帯一路」沿線国への再生可能エネルギー関連投資も増加傾向にあります。

中国企業は技術面でも高い競争力を有する

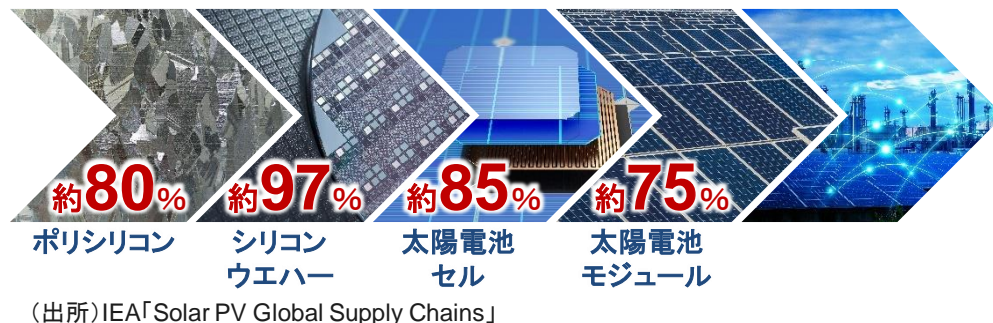
＜再生可能エネルギー技術の特許出願件数比率(国・地域別)＞
(2021年)



(出所) IRENA「RE TECHNOLOGY PATENTS REPORTS」

関連部品や設備製造でも高いシェアを誇る

＜太陽光発電サプライチェーンにおける中国企業のシェア＞
(2021年)



＜関連設備製造における中国企業のシェア＞
(2020年)



(出所) 中国国家能源局

※上記は過去のものであり、将来の運用成果などを約束するものではありません。

※写真はイメージです。

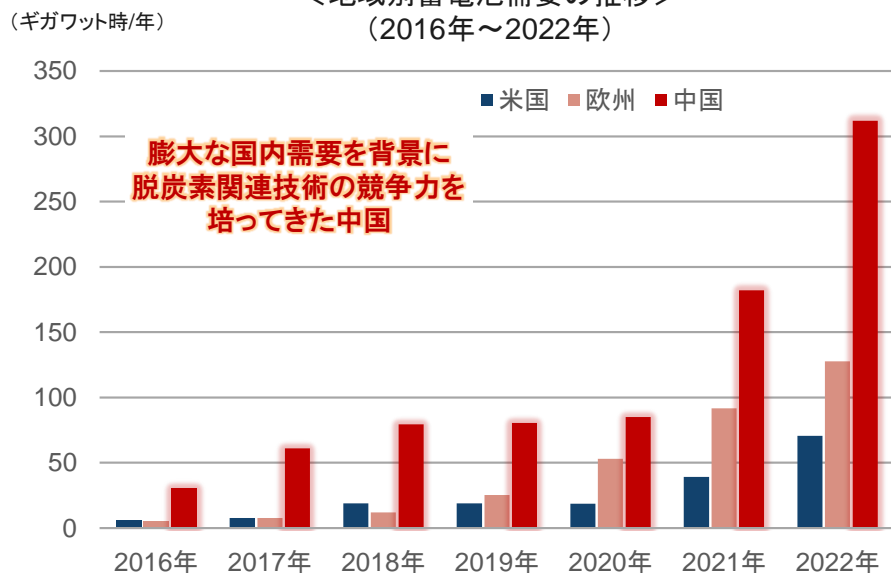
3. 国際的な競争力

脱炭素分野における中国企業の優位性 (EV・蓄電池)

- 低価格EVの登場や急速充電技術の開発など、近年、中国のEVメーカーは技術革新を通じた競争力の向上を実現しています。また、EV需要の拡大に加え、再生可能エネルギー設備の増加などから蓄電設備の需要も拡大しており、関連企業の成長を促しています。
- 世界的な脱炭素化の流れの中、CO₂排出量が増加する新興国でもこうした技術への需要が高まるとみられ、中国は「一带一路」を通じて脱炭素分野の主導権を獲得していくと期待されます。

国内需要を背景に競争力を高めてきた中国

＜地域別蓄電池需要の推移＞
(2016年～2022年)



(出所)IEA「Global EV Outlook 2023」

一带一路を通じた脱炭素需要の取り込み



※中国国務院などの情報をもとに日興アセットマネジメントが作成
※上記はイメージです。

※上記は過去のものであり、将来の運用成果などを約束するものではありません。

当ファンドの投資対象イメージ

- 当ファンドでは、脱炭素社会実現のために必要な以下3つの工程に着目し、関連する中国企業に投資を行ないます。また、脱炭素関連のインフラやハードウェアと、デジタル技術、AI(人工知能)技術との融合などにより、更なる進化が期待されるビジネスにも注目します。

1 クリーンエネルギーの創出



<代表的なビジネス例>



太陽光発電
風力発電

水素

その他
クリーンエネルギー

2 エネルギー貯蔵能力の向上



<代表的なビジネス例>



バッテリー・
蓄電池

インフラ

エネルギー・
マネジメント

3 持続可能なエネルギー利用



<代表的なビジネス例>



電化

省エネ

その他
ソリューション

脱炭素社会において
進化するビジネス

次世代
モビリティ

※写真はイメージです。

※上記は当ファンドの投資対象を限定するものではありません。

ファンドの特色

特色1

主として、脱炭素関連ビジネスを行なう中国企業および同ビジネスの恩恵を受ける中国企業の株式に投資を行ないます。

- 脱炭素社会の実現に必要な技術・素材、製品、サービスなどを提供する企業や、同社会への移行により恩恵を受ける企業の株式(預託証券を含みます)を主要投資対象とします。
- 上海および深センの金融商品取引所に上場されている中国企業の株式のほか、香港や米国の金融商品取引所などに上場されている中国企業の株式を主要投資対象とし、中長期的な信託財産の成長をめざします。
- 外貨建資産への投資にあたっては、原則として為替ヘッジは行ないません。

特色2

日興アセットマネジメント アジア リミテッドが運用を行ないます。

- 中国A株やアジアの株式への投資に豊富な実績を有する、日興アセットマネジメント アジア リミテッド(NAM アジア)がマザーファンドの運用を行ないます。
- 深センに本拠を置き、中国本土市場に精通した資産運用会社として知られる融通(ロントン)基金管理有限公司から提供される情報や、日興アセットマネジメント ホンコン リミテッドからの情報も活用します。

特色3

年1回、決算を行ないます。

- 毎年9月13日(休業日の場合は翌営業日)を決算日とします。
※ 分配金額は収益分配方針に基づいて委託会社が決定しますが、委託会社の判断により分配金額を変更する場合や分配を行なわない場合もあります。

※市況動向および資金動向などにより、上記のような運用が行なえない場合があります。

当ファンドの運用プロセスにおいて、脱炭素ビジネスとの関連性の調査を行ないますが、ESG評価が投資対象選定の主要な要素ではないため、日興アセットマネジメントでは「金融商品取引業者等向けの総合的な監督指針」を踏まえて、当ファンドは「ESG投信」に該当しないと判断しました。

日興アセットマネジメント アジア リミテッド(NAM アジア) について

- 日興アセットマネジメント・グループの一員であるNAM アジアは、1982年以來の長きにわたるアジアでの運用実績があります。アジア金融市場の中心地であるシンガポールを拠点として、各国中央銀行、政府系企業、年金基金、金融機関など多様な顧客の資産運用を行なっています。

※「日興アセットマネジメント アジア リミテッド」は、「日興アセットマネジメントシンガポール リミテッド」とDBS銀行傘下の「DBSアセットマネジメント リミテッド」の統合により誕生しました。

ロトン

融通基金管理有限公司



中国・深センに拠点を置き、現地の企業情報を提供

NAM アジアが、ボトムアップリサーチに基づき、銘柄を選定します。また、融通(ロトン)基金管理有限公司から提供される情報や、日興アセットマネジメント ホンコン リミテッドからの情報も活用します。
※市況動向および資金動向などにより、上記のような運用が行なえない場合があります。

NAM アジアの概要

- ❖ 本拠地 : シンガポール
- ❖ 設立年 : 1982年



当ファンドの運用拠点

Nikko AM Asia

NAM アジア



アジアの情報が集まるシンガポールの利点を活かして当ファンドを運用

(2023年9月末時点)

運用プロセス

■ 当ファンドの主な投資対象であるマザーファンドの運用プロセスは、以下の通りです。

各金融商品取引所*に
上場されている中国企業の株式

*上海・深セン・香港・米国などを指します。

投資候補銘柄群

ポートフォリオ構築

パフォーマンスおよびリスクのモニタリング

【投資候補銘柄群の選定】

- 時価総額や流動性などをもとに投資可能銘柄のスクリーニングを行ないます。
- 脱炭素ビジネスとの関連性を調査することに加え、企業のファンダメンタルズ分析を行ないます。個別企業の調査結果などをもとに、収益の持続可能性、本質的で前向きな構造変化、マネジメントの質、株価バリュエーション、財務健全度などに着目し、投資候補銘柄群を絞り込みます。

【ポートフォリオ構築】

個別銘柄に対する確信度や株価水準、リスク特性、ポートフォリオ全体のバランスなどを考慮の上、最終的な投資銘柄および投資比率を決定します。

パフォーマンスやリスクを日々モニターし、必要に応じてポートフォリオの見直しを行ないます。

※上記は2023年9月末現在の運用プロセスであり、将来変更となる場合があります。

運用実績

＜基準価額と純資産総額の推移＞
 (2021年9月10日(設定日)～2023年10月31日)



(2023年10月31日現在)

基準価額

6,317 円

純資産総額

9 億円

- ※ 基準価額は信託報酬(後述の「手数料等の概要」参照)控除後の1万口当たりの値です。
- ※ 上記期間における分配金の支払い実績はありません。

※上記は過去のものであり、将来の運用成果などを約束するものではありません。

ポートフォリオの概要 (2023年9月末時点)

<通貨別組入比率>

| 通貨 | 比率 |
|--------|-------|
| 中国元 | 88.7% |
| 香港ドル | 7.0% |
| アメリカドル | 1.8% |

<規模別構成比率>

| 時価総額 | 比率 |
|----------------------|-------|
| 超大型株 (5兆円以上) | 20.1% |
| 大型株 (1兆円以上5兆円未満) | 38.6% |
| 中型株 (3,000億円以上1兆円未満) | 21.9% |
| 小型株 (3,000億円未満) | 19.4% |

※「規模別構成比率」は組入銘柄の評価額の合計を100%として計算したものです。

<上場市場別組入比率>

| 上場市場 | 比率 |
|--------|-------|
| 深セン市場 | 63.5% |
| メインボード | 31.1% |
| 創業板 | 32.4% |
| 上海市場 | 25.2% |
| メインボード | 19.4% |
| 科創板 | 5.7% |
| 香港市場 | 7.0% |
| 米国市場 | 1.8% |
| その他市場 | 0.0% |

<業種別組入上位10業種>

| 業種 | 比率 |
|---------------|-------|
| 資本財 | 46.8% |
| 半導体・半導体製造装置 | 17.5% |
| 自動車・自動車部品 | 14.5% |
| 素材 | 10.3% |
| メディア・娯楽 | 3.1% |
| ソフトウェア・サービス | 3.0% |
| テクノロジー・ハードウェア | 1.4% |
| 公益事業 | 0.9% |

<組入上位10銘柄> (銘柄数:50銘柄)

| | 銘柄名 | 通貨 | 上場市場 | 業種 | 比率 | | 銘柄名 | 通貨 | 上場市場 | 業種 | 比率 |
|---|--|-----|-----------------|-----------------|------|----|---|------|----------------|-----------------|------|
| 1 | CONTEMPORARY AMPEREX TECHN-A コンテンポラリー・アンペレックス・テクノロジー | 中国元 | 深セン市場 創業板 | 資本財 | 8.2% | 6 | BAIDU INC-CLASS A バイドゥ | 香港ドル | 香港市場 | メディア・娯楽 | 3.1% |
| 2 | BYD CO LTD -A ビーワイディー | 中国元 | 深セン市場 メインボード | 自動車・ 自動車部品 | 5.5% | 7 | ZHEJIANG JINGSHENG MECHANI-A ジャージャン・ジンシェン・メカニカル | 中国元 | 深セン市場 創業板 | 半導体・半導 体製造装置 | 2.5% |
| 3 | SUNGROW POWER SUPPLY CO LT-A サングロー・パワー・サプライ | 中国元 | 深セン市場 創業板 | 資本財 | 5.5% | 8 | SHENZHEN INOVANCE TECHNOLO-A シェンゼン・イノバンス・テクノロジー | 中国元 | 深セン市場 創業板 | 資本財 | 2.4% |
| 4 | ZHEJIANG SANHUA INTELLIGEN-A ジャージャン・サンファ・インテリジェント・コントロールズ | 中国元 | 深セン市場 メインボード | 資本財 | 4.1% | 9 | NINGBO ORIENT WIRES & CABL-A ニンポー・オリेंटワイヤレス・アンド・ケーブルズ | 中国元 | 上海市場 メインボード | 資本財 | 2.3% |
| 5 | JA SOLAR TECHNOLOGY CO LTD-A ジェイエイ・ソーラー・テクノロジー | 中国元 | 深セン市場 メインボード | 半導体・半導 体製造装置 | 3.4% | 10 | SUNRESIN NEW MATERIALS CO -A サン・レジン・ニューマテリアルズ | 中国元 | 深セン市場 創業板 | 素材 | 2.2% |

※上記はマザーファンドの状況です。比率はマザーファンドの純資産総額に対する比率です。

※個別の銘柄の取引を推奨するものではありません。

※上記銘柄については将来の組入れを保証するものではありません。

※一部の市場において、流動性などを勘案して、該当企業のADR・GDR(預託証券)等を組入れる場合があります。

※上記は過去のものであり、将来の運用成果などを約束するものではありません。

組入上位銘柄のご紹介① (2023年9月末時点)

コンテンポラリー・アンペレックス・テクノロジー (CATL)



業 種: 資本財
 上場市場: 深セン市場
 創業板
 時価総額: 8,928億元
 (約18.2兆円)

車載用バッテリー製造の世界的リーダー

- 世界大手の車載電池(バッテリー)メーカー。2011年の創設以来、世界最大のEV(電気自動車)市場である中国を足場に急成長を遂げ、現在では車載電池の世界シェア首位を競う存在となっています。
- 同社はエネルギー密度や耐久性が世界最高水準の車載電池のほか、最先端の再エネ向け貯蔵システムも提供しています。
- 同社は、環境規制の強化でEV化が加速する欧州にも大規模工場を展開しており、日米欧の大手自動車メーカーに供給先を広げているほか、EV世界最大手の米テスラ社とも供給契約を結んでいます。

※換算為替レート: 1人民元=20.45円(2023年9月末時点)

※写真はイメージです。

ビーワイディ



業 種: 自動車・
 自動車部品
 上場市場: 深セン市場
 メインボード
 時価総額: 6,697億元
 (約13.7兆円)

バッテリー製造からスタートした中国最大級のEVメーカー

- 自動車やバッテリー、電子部品などの製造に従事し、EVの販売台数は中国最大規模を誇ります。ガソリン車と遜色のない価格競争力を強みとしており、特に同社の電気バスは世界各国で採用されています。
- 同社は自社開発のバッテリーを搭載したEVを製造する、中国初のメーカーです。バッテリーや半導体などの技術を保持していることは、新車開発でも大きな差別化要因となり得ます。
- 傘下には半導体製造などで国内有数の電子機器メーカーを擁しており、そこで培った技術力がバッテリーなどの分野にも活かされています。

信頼できると判断した情報をもとに日興アセットマネジメントが作成

上記は、当ファンドのマザーファンドの組入上位銘柄について、マザーファンドの運用会社である日興アセットマネジメントアジアリミテッド、およびマザーファンドの運用に助言を行なう日興アセットマネジメント ホンコンリミテッドからのコメントをもとに、日興アセットマネジメントがまとめたものです。当該銘柄について、売買を推奨するものでも、将来の価格の上昇または下落を示唆するものでもありません。また、当ファンドにおける将来の銘柄の組入れまたは売却を示唆するものでもありません。また、上記は過去のものであり、将来の運用成果などを約束するものではありません。

組入上位銘柄のご紹介② (2023年9月末時点)

サングロー・パワー・サプライ



業 種: 資本財
 上場市場: 深セン市場
 創業板
 時価総額: 1,329億元
 (約2.7兆円)

太陽光発電用インバーターにおける世界最大手の一角

- 太陽光発電用インバーターで世界的に高シェアを誇り、150以上の国・地域で販売を行なうほか、風力発電用コンバーターや再エネ関連プロジェクトの設計・建設事業にも従事しています。
- 太陽光発電市場の急拡大に伴ない、インバーター需要も拡大が予想されます。同社は、主力のインバーター事業において、欧米の競合の半額以下という価格競争力により、更なるシェア拡大が期待されます。
- 主力事業における強みを背景に、ESS (エネルギー貯蔵システム) やプロジェクト設計・建築事業などへの事業拡大余地も大きいとみられます。

※換算為替レート: 1人民元=20.45円(2023年9月末時点)

※写真はイメージです。

ジェイエイ・ソーラー・テクノロジー



業 種: 半導体・
 半導体製造装置
 上場市場: 深セン市場
 メインボード
 時価総額: 847億元
 (約1.7兆円)

国内外で認められた高い信頼性を背景に世界各国で活躍

- 太陽光発電機器メーカー。シリコンウエハー製造から、太陽光電池、モジュール製造に至る垂直型のビジネスを展開するほか、子会社を通じて太陽光発電システムの建築・運営も手掛けています。
- 一貫生産を強みとしており、徹底した品質管理と量産化による大幅なコストダウンを実現しています。
- 同社の高効率モジュールは世界で高い評価を受けており、メガソーラーのような大規模発電施設で広く採用されているほか、製品の輸出先は130カ国・地域を超えるなど、グローバルに展開しています。

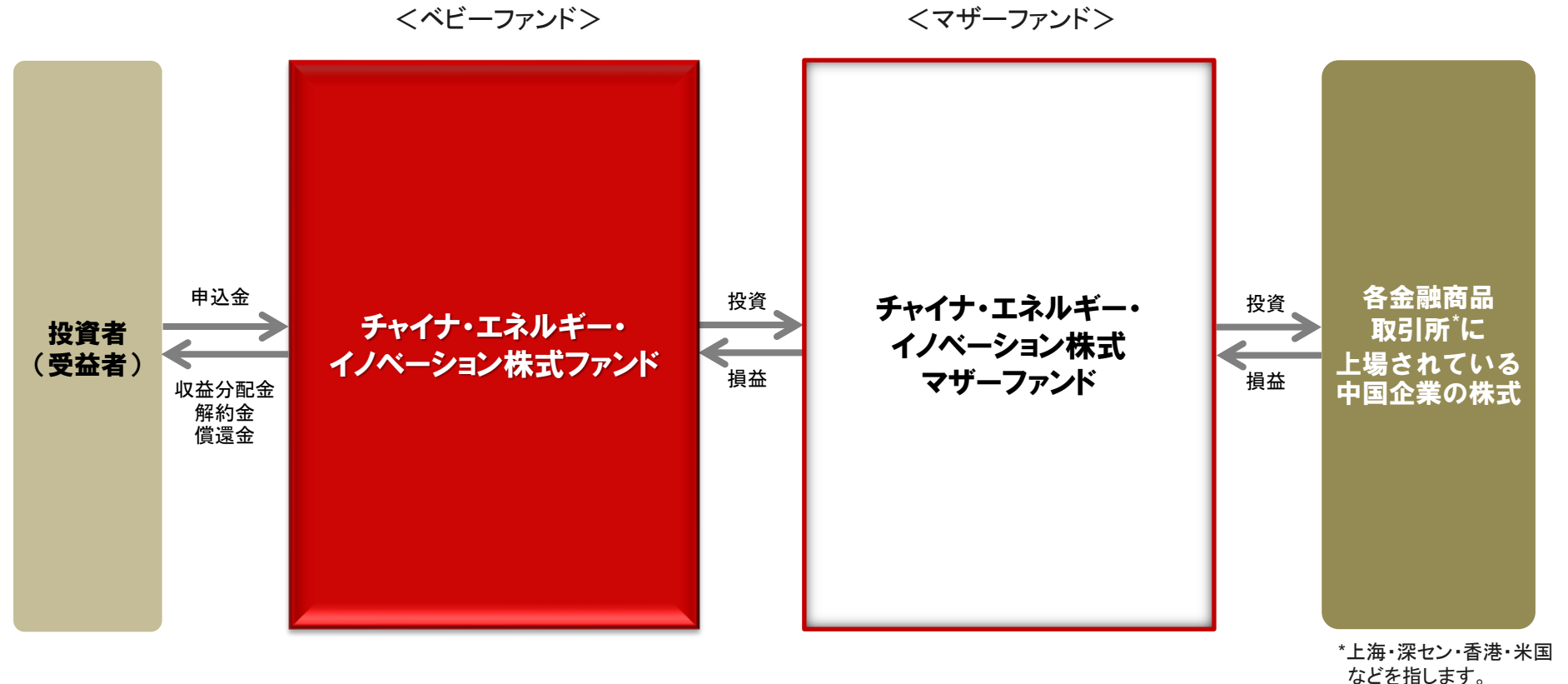
信頼できると判断した情報をもとに日興アセットマネジメントが作成

上記は、当ファンドのマザーファンドの組入上位銘柄について、マザーファンドの運用会社である日興アセットマネジメントアジアリミテッド、およびマザーファンドの運用に助言を行なう日興アセットマネジメントホンコンリミテッドからのコメントをもとに、日興アセットマネジメントがまとめたものです。当該銘柄について、売買を推奨するものでも、将来の価格の上昇または下落を示唆するものでもありません。また、当ファンドにおける将来の銘柄の組入れまたは売却を示唆するものでもありません。また、上記は過去のものであり、将来の運用成果などを約束するものではありません。

ファンドの仕組み

- 当ファンドは、主にマザーファンドに投資するファミリーファンド方式で運用を行ないます。

※ファミリーファンド方式とは、投資者から投資された資金をまとめてベビーファンドとし、その資金を主としてマザーファンドに投資して、実質的な運用をマザーファンドで行なう仕組みです。



お申込みに際しての留意事項①

■ リスク情報

投資者の皆様は投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者(受益者)の皆様には帰属します。なお、当ファンドは預貯金とは異なります。

当ファンドは、主に株式を実質的な投資対象としますので、株式の価格の下落や、株式の発行体の財務状況や業績の悪化などの影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。また、外貨建資産に投資する場合には、為替の変動により損失を被ることがあります。

主なリスクは以下の通りです。

価格変動リスク

- 株式の価格は、会社の成長性や収益性の企業情報および当該情報の変化に影響を受けて変動します。また、国内および海外の経済・政治情勢などの影響を受けて変動します。ファンドにおいては、株式の価格変動または流動性の予想外の変動があった場合、重大な損失が生じるリスクがあります。
- 新興国の株式は先進国の株式に比べて、また中小型株式は株式市場全体の平均に比べて価格変動が大きくなる傾向があり、基準価額にも大きな影響を与える場合があります。

流動性リスク

- 市場規模や取引量が少ない状況においては、有価証券の取得、売却時の売買価格は取引量の大きさに影響を受け、市場実勢から期待できる価格どおりに取引できないリスク、評価価格どおりに売却できないリスク、あるいは、価格の高低に関わらず取引量が限られてしまうリスクがあり、その結果、不測の損失を被るリスクがあります。
- 新興国の株式は先進国の株式に比べて、また中小型株式は株式市場全体の平均に比べて市場規模や取引量が少ないため、流動性リスクが高まる場合があります。

信用リスク

- 投資した企業の経営などに直接・間接を問わず重大な危機が生じた場合には、ファンドにも重大な損失が生じるリスクがあります。デフォルト(債務不履行)や企業倒産の懸念から、発行体の株式などの価格は大きく下落(価格がゼロになることもあります。)し、ファンドの基準価額が値下がりする要因となります。

為替変動リスク

- 外貨建資産については、一般に外国為替相場が当該資産の通貨に対して円高になった場合には、ファンドの基準価額が値下がりする要因となります。
- 一般に新興国の通貨は、先進国の通貨に比べて為替変動が大きくなる場合があります。

(次ページに続きます)

お申込みに際しての留意事項②

(前ページより続きます)

カントリー・リスク

- 投資対象国における非常事態など(金融危機、財政上の理由による国自体のデフォルト、重大な政策変更や資産凍結を含む規制の導入、自然災害、クーデターや重大な政治体制の変更、戦争など)を含む市況動向や資金動向などによっては、ファンドにおいて重大な損失が生じるリスクがあり、投資方針に従った運用ができない場合があります。
- 一般に新興国は、情報の開示などが先進国に比べて充分でない、あるいは正確な情報の入手が遅延する場合があります。
- 上海や深センのストックコネクト(株式相互取引制度)を通じた中国A株への投資においては、取引可能な銘柄が限定されていることに加えて、投資枠や取引可能日の制約、長期にわたって売買停止措置がとられる可能性などにより、意図した通りの取引ができない場合があります。また、ストックコネクト特有の条件や制限は、今後、中国当局の裁量などにより変更となる可能性があります。さらに、ストックコネクトにおける取引通貨はオフショア人民元となり、QFII制度の取引通貨である中国本土のオンショア人民元の為替レートの値動きとは乖離する場合があります。こうした要因から、ファンドの基準価額に影響を与える可能性があります。

※基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

その他の留意事項

- 当資料は、投資者の皆様にご理解を高めることを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。
- 当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリング・オフ)の適用はありません。
- 投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、銀行など登録金融機関で購入された場合、投資者保護基金の支払いの対象とはなりません。
- 分配金は、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。分配金は、計算期間中に発生した運用収益を超えて支払われる場合があります。投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。
- 投資信託の運用による損益は、すべて受益者の皆様に帰属します。当ファンドをお申込みの際には、投資信託説明書(交付目論見書)などを販売会社よりお渡ししますので、内容を必ずご確認の上、お客様ご自身でご判断ください。

| | |
|------------|---|
| 商品分類 | 追加型投信／海外／株式 |
| 購入単位 | 販売会社が定める単位 ※販売会社の照会先にお問い合わせください。 |
| 購入価額 | 購入申込受付日の翌営業日の基準価額 |
| 信託期間 | 2049年9月13日まで(2021年9月10日設定) |
| 決算日 | 毎年9月13日(休業日の場合は翌営業日) |
| 収益分配 | 毎決算時に、分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向などを勘案して決定します。 ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行わないこともあります。 ※将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。 |
| 換金価額 | 換金申込受付日の翌営業日の基準価額 |
| 購入・換金申込不可日 | 販売会社の営業日であっても、購入・換金の申込日が下記のいずれかに該当する場合は、購入・換金の申込みの受付は行ないません。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。 <ul style="list-style-type: none"> ・シンガポール証券取引所の休業日 ・上海証券取引所の休業日 ・深セン証券取引所の休業日 ・香港証券取引所の休業日 ・シンガポールの銀行休業日 ・中国の銀行休業日 ・香港の銀行休業日 |
| 換金代金 | 原則として、換金申込受付日から起算して7営業日目からお支払いします。 |
| 課税関係 | 原則として、分配時の普通分配金ならびに換金時および償還時の差益は課税の対象となります。 ※課税上は、株式投資信託として取り扱われます。 ※公募株式投資信託は税法上、少額投資非課税制度(NISA)の適用対象です。 ※2024年1月1日以降、公募株式投資信託は税法上、一定の要件を満たした場合にNISAの適用対象となります。当ファンドは、NISAの「成長投資枠(特定非課税管理勘定)」の対象となる予定ですが、販売会社により取扱いが異なる場合があります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。上記は、2023年10月末現在のものです。税法が改正された場合などには、変更される場合があります。 ※配当控除の適用はありません。 ※益金不算入制度は適用されません。 |

手数料等の概要

投資者の皆様には、以下の費用をご負担いただきます。

<申込時、換金時にご負担いただく費用>

| | |
|---------|---|
| 購入時手数料 | 購入時の基準価額に対し3.3%(税抜3%)以内 ※購入時手数料は販売会社が定めます。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。 ※収益分配金の再投資により取得する口数については、購入時手数料はかかりません。 |
| 換金手数料 | ありません。 |
| 信託財産留保額 | ありません。 |

<信託財産で間接的にご負担いただく(ファンドから支払われる)費用>

| | |
|------------------|--|
| 運用管理費用 (信託報酬) | ファンドの日々の純資産総額に対し年率1.683%(税抜1.53%) |
| その他の費用・ 手数料 | 目論見書などの作成・交付および計理等の業務に係る費用(業務委託する場合の委託費用を含みます。)、監査費用などについては、 ファンドの日々の純資産総額に対して年率0.1%を乗じた額の信託期間を通じた合計を上限とする額が信託財産から支払われます。 組入る有価証券の売買委託手数料、資産を外国で保管する場合の費用、借入金の利息および立替金の利息などがその都度、信託財産から支払われます。 ※ 運用状況などにより変動するものであり、事前に料率、上限額などを表示することはできません。また、有価証券の貸付は現在行なっておりませんので、それに関連する報酬はかかりません。 |

※投資者の皆様にご負担いただくファンドの費用などの合計額については、保有期間や運用の状況などに応じて異なりますので、表示することができません。
※詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

委託会社、その他関係法人

| | |
|--------|--|
| 委託会社 | 日興アセットマネジメント株式会社 |
| 投資顧問会社 | 日興アセットマネジメント アジア リミテッド |
| 受託会社 | 三井住友信託銀行株式会社 |
| 販売会社 | 販売会社については下記にお問い合わせください。 日興アセットマネジメント株式会社 [ホームページ]www.nikkoam.com/ [コールセンター]0120-25-1404(午前9時～午後5時。土、日、祝・休日は除く。) |

投資信託説明書(交付目論見書)のご請求・お申込みは

| 金融商品取引業者等の名称 | 登録番号 | 加入協会 | | | | |
|---|----------|-----------------|-------------------------|-------------------------|----------------------------|---|
| | | 日本証券業協会 | 一般社団法人 日本 投資顧問業協会 | 一般社団法人 金融先物 取引業協会 | 一般社団法人 第二種金融商品 取引業協会 | |
| a u カブコム証券株式会社 | 金融商品取引業者 | 関東財務局長(金商)第61号 | ○ | ○ | ○ | |
| 株式会社SBI証券 ※右の他に一般社団法人日本STO協会にも加入 | 金融商品取引業者 | 関東財務局長(金商)第44号 | ○ | | ○ | ○ |
| 株式会社SBI新生銀行 (委託金融商品取引業者 株式会社SBI証券) (委託金融商品取引業者 マネックス証券株式会社) | 登録金融機関 | 関東財務局長(登金)第10号 | ○ | | ○ | |
| 株式会社滋賀銀行 | 登録金融機関 | 近畿財務局長(登金)第11号 | ○ | | ○ | |
| 東洋証券株式会社 | 金融商品取引業者 | 関東財務局長(金商)第121号 | ○ | | | ○ |
| PayPay銀行株式会社 | 登録金融機関 | 関東財務局長(登金)第624号 | ○ | | ○ | |
| 松井証券株式会社 | 金融商品取引業者 | 関東財務局長(金商)第164号 | ○ | | ○ | |
| マネックス証券株式会社 | 金融商品取引業者 | 関東財務局長(金商)第165号 | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 楽天証券株式会社 | 金融商品取引業者 | 関東財務局長(金商)第195号 | ○ | ○ | ○ | ○ |

※販売会社によっては取扱いを中止している場合がございます。

(50音順、2023年10月31日現在)



MEMO



MEMO

販売用資料

nikko **am**
Nikko Asset Management